

JRIS

鉄道車両一押ねじ

JRIS R 0110 : 2017

(JARI)

平成 29 年 11 月 1 日 改正

日本鉄道車輛工業会規格審査会 審議

(日本鉄道車輛工業会 発行)

日本鉄道車輛工業会規格審査会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	手塚 和彦	株式会社テス
(委員)	川口 泉	国土交通省鉄道局
	宮本 昌幸	明星大学名誉教授
	近藤 圭一郎	千葉大学大学院
	古関 隆章	東京大学大学院
	岡本 勲	公益財団法人鉄道総合技術研究所
	照井 英之	東日本旅客鉄道株式会社
	萩野 智久	東京地下鉄株式会社
	西垣 昌司	株式会社総合車両製作所
	和嶋 武典	株式会社日立製作所
	四方田 圭一	新日鐵住金株式会社
(鉄車工委員)	佐伯 洋	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
(顧問)	溝口 正仁	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
(事務局)	田中 裕輔	一般社団法人日本鉄道車輛工業会

日本鉄道車輛工業会 基準整備委員会 構成

	氏名	所属
(委員長)	岩滝 雅人	株式会社日立製作所
(委員)	塚原 克之	川崎重工業株式会社
	中村 修二	日本車輛製造株式会社
	菅野 直哉	近畿車輛株式会社
	新井 静男	株式会社総合車両製作所
	新澤 基彦	新潟トランス株式会社
	土井 裕	三菱重工業株式会社
	北林 英朗	株式会社日立製作所
	大前 昭博	東芝インフラシステムズ株式会社
	塩見 省吾	三菱電機株式会社
	梅澤 幸太郎	富士電機株式会社
	佐々木 敏夫	東洋電機製造株式会社
	四方田 圭一	新日鐵住金株式会社
	藤原 達雄	ナブテスコ株式会社
	平本 正幸	日本信号株式会社
	鈴木 静男	株式会社京三製作所
(鉄車工委員)	佐伯 洋	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
(事務局)	田中 裕輔	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
	守谷 文康	一般社団法人日本鉄道車輛工業会

制 定 : 一般社団法人日本鉄道車輛工業会 会長 制定 : 平成 17.3.3 改正 : 平成 29.11.1
 掲 示 : 鉄道車両工業 ; 工業会のホームページ ; URL ; <http://www.tetsushako.or.jp>
 発 行 者 : 一般社団法人日本鉄道車輛工業会
 (〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-2 NTT-TEL ; 03-3257-1901 NTT-FAX ; 03-3257-3200)
 審 査 : 日本鉄道車輛工業会規格審査会
 作成委員会 : 当工業会基準整備委員会

この規格についての意見又は質問は、当工業会にお願いします。
 なお、この規格は、少なくとも5年を経過する日までに確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	1
4 構造	3
4.1 一般	3
4.2 円筒部及びねじ部	4
4.3 ねじ先の形状	5
4.4 材料及び表面仕上げ	5
5 試験・検査	5
5.1 形状・寸法	5
5.2 ねじ	5
5.3 表面状態	5
6 押ねじの呼び	5
7 押ねじの選定	6
8 押ねじの使用上の注意事項	6
8.1 安全の確保	6
8.2 内部骨組の構造及び押ねじの取付例	6
8.3 押ねじの取付けに用いる部品	7
9 標準押ねじ以外の押ねじを採用する場合	8
附属書 A (規定) 標準押ねじの形状及び寸法	9
A.1 記号 A のローレット付きつまみねじ	9
A.2 記号 B のすりわり付きつまみねじ	10
A.3 記号 C のすりわり付きトラス頭ねじ	11
A.4 記号 D のすりわり付き平頭ねじ	12
A.5 記号 E の十字穴付きトラス頭ねじ	13
解説	14

まえがき

この規格は、JRIS 整備車体部会において改正すべきとの申出があり、“日本鉄道車輛工業会規格（以下、鉄車工規格という。）の制定に関する規程”の規定に則り“鉄車工規格審査会”の審議を経て、日本鉄道車輛工業会会長が制定したものである。これによって、JRIS R 0110 : 2005 は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。日本鉄道車輛工業会会長及び鉄車工規格審査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

JRIS “R シリーズ” 制定の背景

2002（平成 14）年まで作成・整備してきた“鉄車工標準：RIS”は、1969（昭和 44）年頃の車両構造の多様化の中で、車両部品の汎用品化（共通使用）、市販品の車両部品への活用などを可能にする活動の一環として、価値分析の手法の活用及びそれぞれの分野のノウハウを取り入れながら、製品仕様、設計標準、作業標準などを標準として定めてきた。

近年、JIS は国際規格との整合化の方針に沿って性能規定化に移行しつつあるが、RIS は鉄道車両業界で必要とする事項を規格として定めているため、従来の RIS の制定方針に沿う標準と新しい JIS の考え方に沿う標準との複数が構成されている。

今後、我が国の進んだ技術をベースにした団体規格が、国内のみならず国外でも活用できるようにするために、2003（平成 15）年 1 月に鉄車工規格の作成・登録を公正にするための手順を定めた。この目的に沿うように、既存の“鉄車工標準：RIS”は、順次“鉄車工規格：JRIS の R シリーズ”への改組と必要な見直しを行って原案をまとめ、あらためて鉄車工審査会の承認を経て制定・登録する作業がスタートした。改組して新規に登録する規格の番号は、従来との関連がわかるように、前身の RIS の番号の前に零（0）を加えて 4 桁の番号で構成する。

なお、2003 年以降新規作成・登録する“R シリーズ”の規格は、通常 1001 番以降でグループに区切った番号で登録する。ただし、RIS ベースの規格との関連が強い場合、関連規格に近い番号で登録することがある。

JRIS は、関係する技術分野に応じて五つに区分した体系で構成している。

この規格の“R シリーズ”のほかにも、“D”、“E”、“J”及び“W”シリーズがある。

鉄道車両－押ねじ

Rolling stock－Captive screw

1 適用範囲

この規格は、鉄道車両の客室、運転室などの室内に設ける点検ふた、室内に設ける設備及び機器の覆い、ふさぎ板などの取付けに用いる押ねじについて、形状、寸法、材質及び仕上げ並びに選定方法及び使用上の注意事項を規定する。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

- JIS B 0205-2 一般用メートルねじ－第2部：全体系
- JIS B 1071 締結用部品－精度測定方法
- JIS E 4001 鉄道車両－用語
- JIS G 4303 ステンレス鋼棒
- JIS H 3250 銅及び銅合金の棒
- JIS H 8617 ニッケルめっき及びニッケル－クロムめっき
- JRIS R 0204 鉄道車両－室内大形点検ふた設計標準
- JRIS R 0205 鉄道車両－側かもい点検ふた設計標準
- JRIS R 0214 鉄道車両－室内小形点検ふた設計標準
- JRIS R 1006 鉄道車両－妻かもい点検ふた設計標準

規格概要につき以下は省略する。